

令和5年度第1回白井市地域公共交通活性化協議会

<議事録>

日 時：令和5年6月6日（火） 午前10時から正午まで

場 所：白井市役所東庁舎1階 会議室101

出席委員：山下英之会長、板谷和也副会長、檜山雅紀委員（代理松田氏）、中村啓介委員、徳永敬委員、山崎勝巳委員、島ノ江啓一委員、成田斉委員、吉田英樹委員、桃井正行委員、高山弘美委員、今井庄一郎委員、秋谷智子委員、小林聡委員、佐藤雅彦委員、宮下直也委員、船本彩花委員、村越貴之委員、鈴木智子委員、竹内崇委員、鈴木教之委員、榛沢宏一委員
22名（うち代理出席1名）

欠席委員：野口和雄委員、宇田川清美委員 2名

事務局：伊藤都市建設部長、小島都市計画課長、武藤副主幹、青木主査補、

傍聴者：4名

1 開会

2 令和5年度第1回白井市地域公共交通活性化協議会

[事務局報告事項]

- 出席委員は委員24名中、22名（内、代理出席1名）であり、白井市附属機関条例第6条第2項の規定による会議開催要件（委員の過半数が出席）を満たしているため、会議は成立しています。
- 本会議は、白井市審議会等の会議の公開に関する指針により、原則公開とするとともに、会議録等含め公開を予定しております。

(1) 議題1 白井市地域公共交通網形成計画に係わる令和5年度の事業予定について

【議長】

それでは次第に従いまして会議を進行させていただきます。

議題1、白井市地域公共交通網形成計画に係わる令和5年度の事業予定について、事務局から説明をお願いします。

（事務局より、資料に基づき説明）

【議長】

ただいま事務局から説明がございました。

ここままで不明点や確認したい点、また御意見等ございましたら、頂戴したいと思いますので、

挙手の上、御発言くださいますようお願いいたします。

【委員】

1 ページ目のシステムの構成で、スマホとかPC、これを使って位置データ、これ高齢者の方が使いこなせるかどうか、そこまでお考えでしょうか。

それから、もう1件ですけれども、上屋の事業費503万8,000円ですか、これで施工できるかどうか、この2点。

【議長】

ありがとうございます。

2点ございました。バスロケシステムの御高齢者の御活用の部分と、あと上屋設置に当たっての工事費、この2点だと思います。いかがでしょうか。

【委員】

高齢者の代表で、そういう形で出ております。今のこの位置情報、これ我々の年代では、使っている人と使えない人とどのくらいの割合だか分かりませんが、私は使っていないのですけれども。実際その辺は、すぐにそのとおりの割合、どのくらいの割合か分かりませんが、すぐには、これはいいなというのは、100%はいかないわけで。

どうなのでしょう。将来に向かってはいいと思います。だんだんと若い人世代は、心配ない、日常何でも利用しているわけで。

【議長】

続けますか。

【委員】

同じような答えです。私もスマホを持っていますけれども、こういう面倒くさいのはやったことがない。

それともう一つ、屋根をつける停留所。これは本当に中心しかない。中心でバスを待っている間は、屋根がついているからいいのだけれども、ほかの停留所にはない。炎天下でもない。そういうことを考えると、今ナッシー号走っているときは、バスの停留所を利用していますよね。そこには屋根がある。それも本当の中心地だけ。ほかの路線のバスもそうでしょうけれども、そういうことを考えるなら、白井市全部を考えなきゃいけない。

だから、無駄なことはやめて、もっと実用的な、何回目だかにも言ったのだけれども、バス停行くまでに自転車で行かなきゃいけない人もいるし、車椅子で行かなきゃいけない人もいる。そういうことを考えると、私も発言しましたがけれども、自転車を止めて鍵をかけておいても安全な、

タイヤを、簡易的な自転車とめがあるでしょう。あれを設置してほしいとお願いしたはずなので
す。

だから、そういう細かいところにもっと気をつけないと、中心部だけがどんどん利用しやすくな
って、沿線の利用者は戸惑うばかりだと思いますよ。

それと、このバスロケーションシステム、これは確かにいいでしょうけれども、果たして、私
ももうすぐ80になりますが、恐らく使わないでしょう。だから、若者を中心とするのか、どう
してもこのバスが必要だから、切に願っている人たちを大事にするのか。

そして、ちょっと余談になりますけれども、63だな、あの子は、66か。免許書き換えに行っ
たら、返納しませんかって言われましたって。だから、そういう人たち、私はもう免許返納しま
したけれども、免許を返納したら、どこも行く足がない。そのためのこのコミュニティバスを利用
しなきゃいけないなと思っている人たちには、ちょっとかけ離れた制度、設置ではないかなと
感じます。

【議長】

では、まずここでまとめたいと思います。

2点御質問がございました。バスロケシステム、御高齢者目線でどうかということ。あと、上
屋の建設に当たっては、500万円という建設費についてどうかと。

そこに今、御高齢者目線、利用者目線、それがちょっと欠けているのではないかというよう
なところですか、あとは、以前も御指摘くださったということなのですけれども、駐車場のそば
に自転車のラックといたらいいのでしょうか、そういうのを設置してはどうか。加えて、免許
を返納してくださった方、そういったお話もございました。

では、ここまで一旦お願いしてもいいですか。

【事務局】

貴重な御意見ありがとうございます。

まず、バスロケについて、高齢者のほうの利用がどうなのだろうかということで。まずは、ス
マホで見られるようなシステムにはなるのですが、そういったものをまず導入させていただいて、
高齢者の方でちょっと使い方が分からないとか、話ございましたので、そういったことの利用の
仕方とかの啓発にも今後考えていかなきゃいけないなというふうに思いましたので、そういった
ことにも取り組んでいきたいというふうに思っております。

あと、上屋の事業費なのですが、こちら設置可能な予算ということで持っておりますので、設
置については、この予算の範囲でいけるかというふうに考えております。

それから、お話ありましたような高齢者目線で、例えば自転車のラックとかを停留所という
ようなお話もございましたけれども、設置が可能かとかそういったところも含めまして、今後の
検討として必要なのかなというふうには思いましたので。

【委員】

バス停を利用する人たちに自転車置き場も必要だけれども、バスが来るまでの間、立っていなきゃいけない。ちょっと腰かけるところがあるバス停はいいのだけれども、立っているのがつらいから、椅子か何かを置いてくれるといいねという声も聞いています。本当につけるところと、つけないところというの、差は大きいと思うのね。

余談になるのだけれども、バスが遅れるとか早くなるというのは、年寄りには構わないの。年寄りが乗ったり降りたりするバスだもの、時間どおりに走るわけがない。だから、10分ぐらいはいつも遅れていますけれども、そのぐらいは待てるけれども、それまでに行っていないとダメなから、着いたときに、ほっとしたときに、私が乗るところの七次台中学校の前は、石垣があって、ちょうど腰を下ろすといいようなところがあるから楽なの。全然ないところは、ずっと立って待っていないとダメな。自転車置きのところと椅子の設置を考えていただきたい。

【議長】

ありがとうございました。まだ先ほど少し触れていないところがあったですかね。

【事務局】

そうですね。今、先ほどのお話と今回のお話で、自転車のラックとかベンチも置いてほしいとかいったようなお話ありましたので、スペースですとかいろいろ条件等もございますので、今後、調査研究のほうはしていきたいというふうに思います。

免許返納者とかもいらっしゃるんだよということですので、そういったところも踏まえながら、よりよい公共交通となるように検討していきたいというふうに思います。

以上です。

【議長】

今、事務局から回答がございましたが、先輩方どうですか。

【委員】

期待しています。

【議長】

ありがとうございます。

どうですか、よろしいですか。

【委員】

やはりバス遅れるというのは承知して皆さんお待ちだと思っておりますけれども、私も通ります

と、よく高齢者の方がバス停で待っている場合が多いので、スマホ等が、PC、これを持ち歩く人は多分少ないと思うのですよね。スマホで見るぐらいで、使い方は講習会等でやれば、また違う見方が出てくるのではないかとはいえますけれども。

以上です。

【議長】

ありがとうございました。

【委員】

また別件の話なのですけれども、バスロケ導入に対して、恐らく今、機器選定をこれからやると思うのですけれども。今、何かGTF Sというのですか。共通の国が定めたそういうバスロケを入れるプラットフォームみたいなものがあるので、これに則したものを入れるのが、今後も含めてよろしいのかなとは考えております。

システム関係って、どうしても1回入れて終わりじゃなくて、大体五、六年でサポート停止ですとか、そんな関係でリプレースは必ず必要だと思います。そのときに、結局また一からやるということを極力防ぐ。結果的には、それが予算の低減にもなってくると思うので、今入れる際には、ほぼほぼそうになっていると思うのですが、ひとつ参考までに御検討願えたらと思います。

以上です。

【議長】

ありがとうございました。持続可能なシステムの件ですけれども、何かありますか。

【事務局】

御意見ありがとうございます。機種を選定等に当たりましては、事業者さん等とも御相談させていただきながら選定していきたいと思っておりますので、その際はどうぞよろしく申し上げます。

【議長】

自分もあんまり詳しくないのですけれども、ちなみにGTF Sというのはどういうもの。

GTF S。事務局分かります。

副会長、もし御解説お願いできれば。

【副会長】

今の件なのですけれども、バスロケに限らず、スマホ使えるかどうかはともかくとして、例えば、バス停まで行かないと時刻表見られないって、結構不便でして。知っている人はみんな知っているわけですけれども、初めて乗ろうとするときに、時刻表分からないとって結構ありまし

て。そういうバス停から何時にどこ行きのバスが出るのかというようなことを電子化というのですか、データとして地図情報とかに入れて、誰でも見られるようにすると便利ですよねと。

例えば、バスロケのアプリを入れろと言われると、入れないけれども、スマホで便利なのって、例えばですけども、地図が出せて、どこに行くか地図で見ると、歩いて分かるので便利であるみたいな。あそこにバス停が出てきて、そのバス停をぼちっと押すと、そこに次に来るバスはこれですか、ここにあと何分で来ますとかって出てくると便利ですよねと。そういうことができる情報プラットフォームというのですかね、その枠組みをつくりましょうというのを今、国でやっています。できるところから少しずつ対応していきましょうということで、できるところからやっているという感じです。

これだと、割と一般でこれまで使われていたバスロケと比べると、使い勝手いいかもしれないというので、少しずつやっているところ増えているのですけれども。今おっしゃっていただいたとおりで、データを更新しないといけないのですよ。要するに、時刻表って時々変わりますし、あと、例えばバスの車両を変えたときに、ずっと同じように運行状況とかが出せるかということ、そうじゃない場合もあるということで、何年か置きに見直さないといけないのだけれども、それがなかなかできない場合があると。

特に役所とかですと、委託でやって、3年間これでやってくださいといった後に、その次をやろうとしたら、そのときのことを誰も分からないとか、こういうことが結構あるので、気をつけて導入、運用しましょうということになっています。

これ、ちゃんとできればすごく便利で、ある意味、日本よりも海外のほうが便利なところって結構ありまして。例えば私、4年も前にベトナムのハノイに行ったときには、ハノイ市内のバスは全部グーグルマップのバス停が出てきて、そこでばしっと押すだけで、全部出てきました。非常に便利でした。なので、途上国でも、やろうと思えばできるシステムです。

こういうのを入れるときはなるべく、例えば市内全部のバスで同時に入れて、これからは、ここをぽっと押してくださいという案内ができるといいわけですが。今回のバスロケの導入だと、見た感じの私のイメージですが、コミュバスに限ったものになりそうな感じで。そうすると、今ですと、レインボーバスは多分まだ未導入ですかね。バスロケ、そうですね。なら、やるのなら同時に全部やったほうがいいのではないのかと思いましたけれども。

一方で、こういうのをやったら、皆さん見てくださるのかということ、多分御指摘のとおりで、スマホで一々、遅れているからといって確認する人が多いかといったら、事務局が御努力いただいているところ、あんまり否定するのもなんですけれども、高齢者に限った話ではなく、若い者だって見ませんよね。よっぽど10分、20分来ないということになれば、どうなっているのだと調べて、ああ、バスロケあるんだ、じゃあ見てみようとなって、二次元バーコードをやって、こうやるというのをやりますけれども、電話したほうが早いとか思うし。電話しても、個別の事情は分からないとかって答えられちゃう。すみません、そういうことを言われたりして不満が募ると。

バスロケ入れたいというのは、そういうのの改善なのですね。遅れて来るときに、せめて遅れて来ることが分かれば、家を出るのを少し遅れて出ればいいのか、そういう話なのですけれども。こういう今言ったような事情があるので、あんまりスマホなどで見られるバスロケを、私もいろいろなところであまり強く押していない状況です。無理して勧めなくてもいいのではないかな。

私が、このバスロケを計画に入れたときに申し上げたかどうか、ここで申し上げたかどうか忘れちゃっているのですけれども。やるのだったら、例えば利用者の多いバス停に電光掲示板出さず、あと5分で来ます、あと10分で来ますとかとやったほうが、多分みんな見られるので、まだ来ないのだ、じゃあ、もうちょっと買い物してしよう、近くのコンビニで少し涼しいところに行こうとかできるのではないかみたいなことを申し上げた覚えはあるのです、どこかで。なので、やるのならそっちでしようけれども、ただ、それは当然ですが、お金がかかりますし、メンテナンスも必要なので大変です。

思ったのは、そうであれば、バス停など、今、新しくバス停を造ったりしたところと、あと昔から使っているところと両方あると思うのですけれども、やっぱり御利用者からの視点ってすごく大事です。椅子がないところが多いのだとすると、高齢者が多いバスで、かつ遅れがある程度あると分かっている路線で、椅子もなければ屋根もない。だとすると、なかなか御利用者にとっては大変かなと。せっかく乗っていただけているわけですから、そういうものを設置可能かどうかについて調査して、できるところに椅子を置くと。1個10万とかですかね、単価は分からないのですけれども。バスロケで300万ということであれば、そのお金を使って、そっちを設置したらどうかというようなことを聞いていて思った次第でございました。

否定するわけではありませんが、ぜひ、これでやるから認めてほしいというよりは、こういう施策をやってみたらどうかというような提案を頂いて、その上で予算の使い方を決めていくような感じがいいのではないかなと私は思いました。

以上でございます。

【議長】

多方面にわたりまして本当にありがとうございます。どうでしょうか、今、事務局、副会長からもいろいろなお話ございました。その提案の受け入れ方とでもいいでしょうか、今後の方向性についても。

【事務局】

貴重な御意見ありがとうございます。

バスロケにつきましては、前回の協議会の際も、バス停に電光掲示板のようなものをつけるようなバスロケになるのかとか、いろいろ御意見も頂きまして、そういう、御意見もあった中なのですが、まずは、そこまでやると事業費も当然かかってきますので、実際ナッシー号とかですと、

バスがただ遅れているだけなのか、実はもう行ってしまっているのかとかいったような問合せが結構、役所にも、バスが遅れているときとかございますので、そういったものをお客様が自分で見られるようなシステムを入れたいということで。まずは、スマホで見られるようなシステムを導入したいということで、前回の会議でも議論させていただきまして、優先事業として今年度からやっていくということになっておりますので、まずは、今回このバスロケシステムを入れていきたいというふうに考えております。

それ以外に、待合環境ですとか、そういったものの整備、ベンチを置くとかそういったところについても、御意見ありましたように、設置可能な場所とか、そういったところは確認していかなきゃいけないのかなというふうに考えたところでございます。

以上です。

【議長】

ありがとうございました。

【委員】

先ほどの副会長のところの補足というところでもないのですけれども、実際、船橋新京成バスでバスロケのほうは導入してしまっていて、コミュニティーのほうではないのですけれども、西白井線のほうも今、御利用できる状況にあります。

実際、これ運用してかなりたっているのですけれども、確かに、否定するわけではないのですけれども、すごく便利で、使える方にとっては、かなりいいツールなのですけれども、当社の、うちの会社のPR活動のところは足りていないというところもあるのでしょうかけれども、西白井線のところに限ったところでもなく、船橋方面の利用者の多いところでも、あまり活用されているというところを感じられないのですね。

QRコードとか、二次元コードとか、バス停とかに設置などもしてPR活動をしているのですけれども、なかなか普及してこないというところで、先ほど副会長のおっしゃったように、なかなかこれが、御高齢の方だけではなくて、若い世代の方とかもあまり活用されているところが見受けられないなど。

私の場合、バスにも乗るのですけれども、知っていますので、使うとすごく便利なのですけれども、なかなか活用されていないというところが現状で。多分、今のところの西白井というところのバスビジョン、バスロケシステムも運用しているのですけれども、これ利用されている方もしいたとしても、乗車されている方がいたとしても、多分利用されている方というのは、ほとんど、この中でもいっしょらないのかなというふうに考えていますので。現状としては、そういったところでもありますので、先に導入しているというところの実態としての報告ということで、私の実際に感じているところの状況ということになります。

それとは別で、上屋の設置のほうなのですけれども、これについても、御高齢の方が多い路

線だと、やはり座りたいというのが、どこの路線に限らず多いので。船橋市でいうと、上屋の設置とか、限ったバス停ではなく、できる市の市道とかになるのですかね。そういったところに関しては、なるべく設置しようみたいなどころの取組があったかと思imasuので。予算の都合等あるのでしょうけれども、上屋、白井駅だけではなく、椅子などの設置というのは、かなり利用者の方の利便に供するのかなというふうに考えていますので、御検討いただければというふうに思います。

以上です。

【議長】

ありがとうございました。

一つお伺いしたいのですけれども、先ほど利用があまり進んでいないという分析をされた、アクセス数とか何か、そういうので使われていないという。

【委員】

そこまで。

【議長】

そこまでではない。

【委員】

今、当社のバスロケシステムについてのお話が出ましたので補足をさせていただきますけれども、既に一般の乗り合いバスについては、全路線でバスロケシステムを導入しております。先ほど、QRコードというような話もあったのですが、少しPR不足というところも一つありますし、やはりバスロケシステム、これウェブで見るのですけれども、そこにバス停名を選択して、どこ行き、行き先を選択して、何時とか情報を入力していくと、かなり手間でしょうということで、そのバス停の運行情報が一発で分かるQRコード、それをカメラで撮ってアクセスすると、そのバス停の運行情報が一発で分かるふうにして。全部のバス停に貼り出しているわけではないのですけれども、実験として、お客様の利用の多いところから、時刻表のところにQRコードをつけてやってみているのですね。

これ面白いもので、路線ごとに利用状況というか、アクセス数のむらがありまして、船橋駅から市立体育館の区間については結構アクセスが多いのですけれども、津田沼駅から自衛隊のほうですね。成田街道を通る津田沼線については少なかったり、利用されているお客様の属性でやっぱり違うのかなと。

私も見ていますけれども、お年寄りの方で、例えばQRコード写真撮ってくださいと言っても、動画モードになっちゃったりとか、保存できなかったりとか、なかなか戸惑う方も多くいらっし

やると思いますので、少しやっぱり利用されている方の年代の差というのがあるのかなというふうに思っています。全体的に利用が少なくてというのは、会社のPR不足もあるのですが、やってみて、路線ごとにも少し違いがあるということです。

あと、バスロケのネットワークというか、そういうものも意識しなきゃいけないのかなと思っ
ていまして。2ページの最後のところで、市のコミュニティバスを含む公共交通全体の利便性の
向上とそれに伴う利用促進ということで、例えば、ちばレインボーバスさんであったり、当社バ
スだったり、あるいは、生活バス千葉ニューであったり、そういうナッシー号だけではなくて、
全体を絡めた情報が分かるようなシステムにしないと、その辺の検討が必要なのかなというふう
に思っています。

やはり御高齢の方が現実的にバスを利用しやすくするというのであれば、これは私からの提
案なのですが、例えば、白井駅において、白井市役所まで行きましょうといったときに、
歩くと結構距離があるのですよ-ね。運行しているバス会社さんは結構多くて、レインボーさん
もそうですし、千葉ニューも走っていますし、ナッシー号も走っていますし、どれで行けばいい
のかなとか。駅を降りて、すぐにバスが分かる。その辺から考えてみてもいいのではないかなと
いうふうに思います。

【議長】

今、非常に富んだ御意見を頂戴したところでございます。
事務局で何かお話、少し深掘してみたいところとかって何かありますか。

【事務局】

貴重な御意見ありがとうございます。

バスロケあるとすごく便利なのだけれども、なかなか利用者のPRとかが難しいというよう
なところがあるのだなというのはよく分かりました。なので、PRがすごく大事なのだなという
ところが分かりましたので、導入した際には、そういったところも含めて考えていきたいとい
うところもございますので、導入に当たって、またいろいろ事業者さんからも御意見頂きたい部分
もございますので、その際は、どうぞよろしく申し上げます。

【議長】

確かにそうですね。最初どういうプラットフォームづくりができるかということで、結構ポイ
ントになるのではないかなと非常に感じております。まさに民間のバスかもしれませんが、私ど
もにとっては、先輩事業者さんということもございまして、いろいろなお知恵を借りに行く
こともきっとあると思いますので、よろしく願いいたします。
何かほかに。どうぞ。

【委員】

私から、今日の提案の内容で不明な点等を確認のためにお伺いさせていただきますので、事業1と事業2と通して順番に行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、総論としては、5年間の白井市の地域公共交通網、この形成計画の期間を3年間延長して、その計画の目標に向けた一つのチャレンジとして、これで全部目標を達成するというよりも、まずこれをやってみて、効果を知りたいというチャレンジの事業であるというふうに認識いたしましたところであります。したがって、今日お伺いしていても、これをやって、なかなか効果が不明な点があるかもしれませんが、やった上で、さらによいものにしていくという、次期計画につなげる評価が一番重要だと思っております。そういう意味で、幾つか指摘とか質問とかを入れさせてもらいたいと思っております。

まず、資料のページでいうと3ページにスケジュールがございまして、市民向けの周知広報が11月の下旬からになっています。今までの議論を踏まえても、非常にスマホ等の機器に対する不安というの、高齢の方からもあるように、システムの構築というのはもう9月から始まっています、この事業をスタートすることは協議会でかけてやるわけですから、もっと早い段階から、スマホの利用に向けた様々な取組ができるのではないかと。

例えば、ウェブサイトのアドレスにアクセスすれば、このバスロケーションシステムを見られるわけですから、まずはスマホに慣れていない方、利用が見込まれる方たちがどうやって使ったらいいいのかというのを、家族で分かる人がいれば、その方に聞くというのがあるのですが、お一人で住まわれている方なんかは、市役所のほうでも、もしくは白井市の中でそういう詳しい方がいればお願いして、スタートの1か月前というよりも、もう少し早い時期からスマホの利用に向けた御案内ができるのではないかとということで、市民向けの周知広報というのをもっと早くしたらどうかと思っておりますので、これは意見として1点述べさせていただきます。

それから2点目としましては、バスロケーションシステムの運用開始後の、説明では白井市が事業主体となってやるというようなことですが、バスロケーションシステムというのは、地上におけるコンピューターのサーバー、この中にソフトウェアを入れて、一般からのアクセスを受けて情報を提供すると。すなわち、それにはバス車両の車載器から通信という形で、アクセスごとにお金もかかりますし、サーバーの運用も、これ未来永劫かかってくるわけです。この辺は、白井市が今後も委託するバス事業者が、例えばそういう部分の一部を負担することはないのかどうか。これは利用が、今回チャレンジですけれども、利用の動向がもっと広がった場合に、白井市が毎年予算計上していく内容になりますけれども、そういうことでよろしいければいいのですけれども、そこが運用開始後の様々なランニングコストについての説明をもし、これはお伺いできればありがたいなと思っております。

それから3点目のお話であります。3点目は、今回3ページのスケジュールを見ますと、6月、今月ですね、仕様の検討というふうになっています。仕様ということは、まだ完全にソフトウェアの設計とかそういうものもこれからだということです。もしできればということで意見を

述べさせていただきます。

ナッシー号、先ほどほかの委員からも、白井市内にはナッシー号以外のバス路線も多数あるという部分はありますが、ナッシー号を利用する方にとってみると、例えば鉄道の駅の大きな利用としては、白井駅、西白井駅、場合によっては千葉ニュータウン中央から、そのナッシー号から乗っていくという場合があると思うのですけれども。利用動向によりますけれども、たくさん利用されるようなところであれば、例えばバスロケーションシステムで、どこどこの、例えば白井市役所のバス停から白井駅に乗っていくというのをアクセスしたときに、大体到着時間は、バスロケーションである程度、コンピューター上で分かるわけです。そのときに、ほかの地域では民間バス、路線バスでも鉄道のダイヤというのはあんまり遅れることって少ないのですけれども、これで行けば、このダイヤに乗れますよという情報は、少し参考としてスマホの画面に出るような仕様があれば、利用者の方も乗っていて、画面見たら、ああ、これ何分発の北総線に乗れるんだ、こういうような少し工夫あってもいいのかなと。これは、別に北総鉄道以外でも、ナッシー号に乗ったとき、スマホの画面で、これで乗っていくとこれがあるという、もう工夫そういうものを、ただ位置情報だけではなくて、位置情報に加えた利用者の方にとっての情報提供が、一つ仕様の検討の中で少しチャレンジをしていただくのはいいのかなと。これは意見でございます。

それから4点目は、今回、白井市の地域公共交通網形成計画、これは冊子で今日皆様の机の上にもあると思うのですけれども、3年間計画期間を延長して、実はこれ、また見直しが令和7年度。このとき一番重要なのが、今回この二つの事業に約800万、350万と500万ですから、約800万のお金を投じるわけなのですけれども、この800万を投資して、どれだけ効果があったのかと。今までもお年寄りの方はあんまり使わないのではないのかとかいろいろありますけれども、この800万をやったことによって、どういうふうに、利用者が増えたのか、満足度が上がったのか、いろいろあると思うのです。それを今日は、私も初めて話すので、御用意なければ次回の会議でもいいのですけれども、どういう手法、例えばアンケートもいいのですけれども、あと、利用者がこの運用を始める前と始まった後で変わったかどうかとか、様々な手法があると思うのです、やり方として。これを今、既に用意されているのであれば、お伺いできればと思うのですけれども、どういうふうに投資した二つの事業についての評価をするための指標をどうやって調べるのか。その評価をどのぐらいの水準までやったら及第なのか落第なのか、もしくはすばらしいのか、こうした評価の手法と評価の指標ですね。分かりにくくてごめんなさい。手の法、手法と指標というのが、今日、説明がなかったのでお伺いできればと思います。これは、もし今日用意されていなくても、まだスタートまではちょっと時間がありますから、実際にその仕様が決定した後、委員の方には説明するというような回答になるかもしれませんが、それでも結構でございます。

以上、5点目なのですけれども、あともう一つの事業についても、続けてよろしいですか。

【議長】

はい

【委員】

5ページにスケジュールがあって、実施計画がありまして、これは白井の交通結節点の南側ロータリーにある上屋を整備するという事なのですけれども。これは、ナッシー号だけしか入らないのか、ある程度、一般バスがそれに応じて調整を取る必要があるのかどうかという部分が、全くこれはナッシー号だけであればいいのですけれども、ほかのバス、一般バスとの例えばダイヤの調整みたいなのがあるのであれば、そうした調整も必要になってくるのですけれども。そうしたこのスケジュールの中には、ナッシー号がここに入ることによって、ダイヤがずれたりすると思うのですけれども、そうした市内のバス事業との調整のスケジュールというものが、工事の内容だけしか書いていないものですから、そうしたものも、今日は実施のいわゆる概要なので、もう少し、次回以降の協議会で御説明いただくというふうになるのであれば、それでも結構ですので、それは一つお願いできればと思います。

それから二つ目の事業についても、周知期間で、これ2点目なのですけれども、市民向けの周知広報が、やはり整備工事が始まったときに周知が始まると。工事が始まる前にやっておいたほうが、あれ、何かやっている、そういう広報周知は、もう少し早めからやられたほうがいいのではないかとというのが、これは意見でございます。

それから3点目は、今回の上屋を整備するという事についても、今日はなければ次回以降でいいのですけれども、評価の手法と評価の指標をどのくらいまでを、この上屋の利用者がどのくらいあったとか、指標あると思うのですけれども、これもこの協議会に御説明していただいたほうがいいのではないかと。

最後の4点目は、これは意見なのですけれども、上屋のあるバス停ってお金がすごくたくさんかかって、市内全域に置くというのは、余力があればいいと思うのですけれども、利用者の多い方にまず優先してつけていくというのは、バス事業の中でも大体そういうふうになっていくものであります。

その上で、一つ考え方を言いますと、まず、夜もバスは走ります。例えば夕方、冬の間は早く日が落ちてきたりするので、照明がついているのかどうかという点がこの写真では少し見えなかったのですが、これから実施設計の業務が6月から、今月から始まるので、ある程度照明もあつたほうがいいのか、あるいは、この図面を見ますと、周りに何も無いような、どちらかという吹きさらし。利用者がかなり多ければ、民間の広告会社にも入ってもらって、風よけを広告スペースにしたりすることもできるのですけれども、そのぐらいの利用があるか分かりませんが、ある程度ベンチを置かれるというのをおっしゃいました。かなり風が強いときは、屋根があつても立ってられないことがあるので、そうした部分の検討もしてはどうかというのは、これは意見です。

それから、もう一つの検討としてみますと、先ほどのバスロケーションシステムで、スマホを持ち歩かない方が、そういう大きなバス停見られればというのはあるのですけれども、何か屋根があって、少し風よけがあれば、タブレットみたいなのを置いて、少しそういうものを、防犯上のあれはあると思うのですけれども、皆さんのものですから取って行く人はいないと思うのですけれども、一つそういうものを上屋のところで、バスの発車時刻とか接近情報を見せるようにできるという部分ができないのかどうか。これは検討できればという一つの意見でありますけれども。

以上。もし回答できることがあれば、お願いしたいのですけれども。

【議長】

本当にありがとうございます。都合九つポイントがあったかと思えます。御意見、御質問併せてどうでしょうか。

【事務局】

御意見ありがとうございます。

まず、周知の時期が遅いのではないかとということで、もう少し考えたほうがいいよというところで御意見頂きましたので、確かになるべく早く周知して、上屋にしろ、バスロケにしろということあるかと思えますので、その辺りは、頂いた御意見を参考に、今後考えていきたいというふうに思います。

それから、バスロケのシステムにつきましては、ナッシー号のほうに入れていく形になりますので、ナッシー号、市で運営をしておりますので、事業者さんのほうに何か費用負担というところなどは、今のところ考えていないところになります。

それから、仕様の検討をこれからしていくというところで、工夫があってもいいのではないかとというような御意見ございましたので、仕様に入れ込めるかどうかは、またいろいろ費用面とかもあるかとは思いますが、頂いた御意見踏まえながら、仕様のほうも考えていきたいというふうに思います。

それからあと、評価の仕方につきましては、利用促進ですとか利用者の利便性の向上ということで、今回、上屋ですとか、バスロケとかやっていく形にはなりますので、それをどう評価するのかというのは、確かに大事な視点だと思いますので、その辺、今日こういう評価しますと言えないところがあるのですが、今後考えていって、委員の皆様にお示しするような形で考えていきたいというふうに思います。

それからあと、上屋に照明とかつづのかなというところでございますが、基本的には白井駅のロータリーの中につけますので、ロータリーの照明が結構明るくございますので、今のところどうか、それで対応するような形で考えております。

あと、バスの上屋の設置に当たってですが、ナッシー号の停留所がありまして、そこが何も今、上屋も何も無いというところについて、今回、待合環境の整備のために上屋とベンチを設置して

いこうというところになりますので、特にほかの路線バスさんとの調整みたいなことは必要ないのかなというふうに考えているところです。

以上になります。

【議長】

あと、上屋の関連で、同じく評価の手法ですとか、市民の皆様への周知のタイミング、その辺り。あと、上屋にタブレットとかそういう、立派なものではないにしても、ある程度そういうモニター的なものというのがあるといいですよねというような、そんな御意見でしたけれども、もしあれば。

【事務局】

すみません、ちょっと漏れがあったようで申し訳ないです。上屋の周知についても、早めにどんどん周知していったほうがいいのではないかとということで御意見ありまして、確かにそうだなというところございますので、周知については、なるべく前倒しでやっていきたいというふうに考えます。

それから評価につきましても、先ほどのバスロケと同じように、目的としては待合環境の整備で、利用者の満足度を高めていきたいというところがございますので、それをどう評価していくのかは検討して、お示ししたいというふうに思います。

それから、タブレットのようなものを置いてみるなどというところで、利用者の利便性の向上とかについては、確かにつながるなというところございますので、ただ、費用面とか、あと、先ほど委員からもおっしゃられましたように、盗難とかいたずらとかというような側面もございまして、今回すぐ導入ということはできないですけれども、まずスマホで見られるバスロケを導入してみて、その後に利便性の向上を図っていく中で、そういったものが可能であるかとかを検討していきたいというふうに思いますので。

以上になります。

【議長】

ありがとうございました。

【委員】

お答えいただきまして、ありがとうございました。

【議長】

せっかくでございます。今日、御発言のない皆様方、今いろいろな市民目線の必要性ですとか、御意見を頂戴したところでございます。せっかくですので、何か、御発言まだされていない方。

お願いします。

【委員】

よろしくお願いします。

前提として、白井市の中で外国人の割合がどうか、あるいは、このコミバスに外国人がどれだけ使っているのかとか、今後どれだけ利用するかという前提を私も勉強不足なので、そこが分からないままなのですけれども。

それを前提としながら、1点だけ質問なのですけれども、このバスロケーションシステムを導入する際に、基本的には、見たときに日本語の表記ということなのでしょうけれども、外国人とかが見ても分かるような表記というのをする予定、あるいは、今後検討していく予定なのか、その辺を、もし決まっているならば、事務局に教えていただけたらと思います。

【議長】

言語表記については、どうでしょうか。

【事務局】

御意見ありがとうございます。

外国人の人口の割合としましては、白井市内全体の2%というふうに把握をしております。バスロケシステムに外国語表記とかもできる仕様とするのかどうかというところは、予算等もございいますので、今後の検討の課題にしていきたいというふうに考えております。御意見ありがとうございます。

【議長】

いかがでしょうか。

御発言まだされていらっしゃらない方で、ぜひ、お願いします。

【委員】

よろしくお願いします。

2点ほどありまして、バスロケシステムのほうなのですけれども、先ほどのお話を聞く中で、当然利用者の方が、高齢者がコミュニティバスなので多いかと思うのですけれども。実際に市役所とか主要な駅とかに、電光掲示板的なもので、高齢者が見て、一目で分かるような、そういうものという設置の案というのは、今までにあったのか、なかったのかをお聞きしたいのと。

あと、もう1点、上屋とベンチのほうなのですけれども、鎌ヶ谷市もそうだったのですけれども、これから夏を迎える中で、暑いと年寄りの方がバス停の裏、少し後ろとか離れたところの木陰で、暑いので、当然そこで休まれる方がいる。そうすると、運転手からすると、待っている方

がすごく見づらいと。通過しそうになって、慌てて止まって、お客さんが歩いてくると。若い方であれば、10分、15分待てるのですけれども、高齢になればなるほど、その10分、15分がかなりきつい状況が見受けられる中で、上屋が先なのか、ベンチが先なのかみたいな部分が必要場所によっては出てくると思うので、その辺の調査をした上で、利用者側の意見といたしますか、状況を把握した上での上屋かベンチが先なのかというものをぜひ検討していただければなと思っております。

以上です。

【議長】

ありがとうございました。
事務局どうでしょうか。

【事務局】

御意見ありがとうございます。

2点ほど御意見頂いたかと思ひまして、まず、市役所ですとか駅に電光掲示板のような案内板の設置の検討とかというのは、今までどうだったのでしょうかというところで。前回か前々回の協議会でも、バスロケやるに当たって、そういったものを設置してみてもどうかというような御意見も確かにあったなというところはございます。

ただ、当然、費用面ですとか、その後の管理費とかもかかりますので、利用啓発に当たっては、そういったぱっと見て分かるものを設置というのはとても大事だとは思いますが、あと費用面とかもございますので、今後も引き続き検討していきたいというふうに考えております。

あと、木陰とか、そういった意味では上屋も大事だし、あと座るところのベンチも大事ですよというところで、上屋とベンチ、どちらが先かみたいなところもあるのかなというところで、今、御意見聞いて思いました。

ただ、上屋については、やはりスペース的なところもございますので、スペースですとかそういったところも含めて、ベンチ、上屋、どういったところに設置できるかというところで、今後検討していきたいというふうに思います。御意見ありがとうございます。

【議長】

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

なかなかこの順位づけというのは、非常に悩ましいといひましょうか、難しいのかなと思ひます。ただ、何か始めていかないかというところもきっとあろうかというところでもあります。

何か御発言し足りないとか、いかがでございましょうか。

【副会長】

先ほど述べ足りなかったことを少しだけ追加させてください。

バスロケの導入については、やっぱりコミバスが遅れが結構多いということで、そこに対する対応をしたいという市としての強い意志を感じましたので、そうであれば、ぜひ使っていただけるようにしていただきたいと。バス停一つ一つに二次元バーコード等を入れるというのは、いろいろ御提案いただきましたが、私もそういうできる限り使っていただけるような工夫をしていくというのが大事かと思いました。

ただ、それをやっても、なかなか見ていただけない場合もあると思うのですが、私、別のところで、具体的に上げちゃうと、茨城県の龍ケ崎市でも同じようなことをやっています、そこは結局バスロケ入れまして、もう10年やっているのですけれども、なかなか御覧いただけないということで、御利用の多い停留所の近くに待合所を設けて、その待合所の中にデジタルで、次のバスは、あと、時刻表何時何分です、今、定時運行です、ちょっと遅れています、結構遅れていますぐらいのそういう案内をデジタルサイネージで出していくというのをやっています、比較的好評です。見ていただいているという感じです。

これは何がいいのかというと、要するに待合室がちょっと、先ほどからの話にもあったのですが、バス停から離れている場合に、いつ頃出ていけばいいのか分からない。ただ、そこにいれば上屋もあるし座れるので、そこで待っていればいいわけですね。それで待っていて、デジタルを見ていて、来たぞ、もうすぐ来るぞと出たら外に出ればいいと。こういう形で待てるようにしたことで、割と苦情の類が減ったと聞いております。

そんな何箇所も置けません、デジタルサイネージ、私、幾らかかったか聞き逃したので自分で勝手に調べましたが、大体機材で10万ちょっとくらいですかね。要するに、ちょっと大きめのところにパソコンからの画面をそのまま出していくような形のものをに入れて、そこに時刻表と到着状況などを入れるみたいなことをやっているのですけれども。市内4か所設置しています、一つはショッピングセンターの中に入れて、来たら出てくださいぐらいの感じですね。

やり方の一例で御紹介したのですが、要は、上屋を設置する場所についても、バス停の目の前である必要は実はなくて、そういうものとセットで整理すると、よりいい建物の中で、情報が分かるから、そこで待っていればいいというようなことも、やってできないわけではないのかなということを感じています。特に昨年、私、白井駅と西白井駅の近くで、バスに乗られる方々がどこで待っておられるとか結構見ていたのですけれども、やっぱりバス停の近くにおられるのは若い方が多くて。

というのは、ベンチがないので座れないですから、そこでやっているのですけれども、そうではない方々は、ちょっと離れたところで座っておられたりするわけです。そうした方々も含めて、ここに行くと結構座れます。待っていて、情報もちゃんとありますみたいなところが分かるようになると、割と利用者の方々にとっては便利になるのかなと思っていますところでございます。すぐにやれという話ではないです。いろいろアイデアはありますので、ぜひそういったことまで

含めて御検討いただいて、施策に移していただけるとよいかと思います。

以上でございます。

【議長】

ありがとうございます。確かに、副会長のお話を聞きながら、なるほどなと思って聞いておりました。

白井駅であれば、これは鉄道会社さんとの調整とかというのは必要になってくると思いますけれども、例えばコンコースのところに、目立つところに、デジタルサイネージだったらそんなにも場所も取らないですし。あとは、お向かいのトウズさんの側とか、そんなところに置いても、なるほどな、確かに今のアイデア、何か使えるかもしれないなんて、勝手な立場で思った次第でございます。

ほかにいかがでございますでしょうか。せっかくの機会でございます。

何か地元からといいましょうか、何かお話ございましたら。

【委員】

私の住んでいる地区は若い世代が多く、40代が中心になっておりまして。こういう会議の場で、バスを利用するというのがほぼなくて、自家用車で若い方々は移動をしているというのが実態にありますので、その地域によって、考え方、バスの乗り方というのは変わっていったのかなと思っています。

やはり駅から遠いところの、ここできて何十年という白井市の中で、当初引っ越してこられた、そのときはばりばり働いていて、もう引退をされる方、そういう方が多くバスを利用、今後していくのかなと思っています。優先順位的には、やっぱり高齢者の方々を優先順位できちんとフォローしてあげたほうがいいのかなと思います。

西白井の1丁目、2丁目、3丁目と、あそこら辺はまだまだできて十数年、まだ若い方が非常に多くて、車も1世帯に2台、3台というふうには持っていますので。そのため、多分コミュニティバスも、なかなかあそこ、私、引っ越してきたときは新鎌ヶ谷のほうまで行っていたのですが、それも取りやめて、レインボーバスに切り替えてというふうには。多分そういう若い世代で利用率が少ないということで路線変更したと思うのですが、やっぱり年寄りというか、車を乗らない世代ですね。60代、70代世代を手厚くカバーしておいたほうがいいのかなという意見です。我々は、まだあと20年ぐらいは、多分自家用車で生活していると思いますので、優先順位をそちらのほうに高めていったほうがいいと思います。

【議長】

ありがとうございました。何か事務局であればお願いします。

【事務局】

御意見ありがとうございます。

若い世代の方々は自家用車、確かに白井市、特に皆さん持っていて、移動も自家用車の方が多
いというのは感じているところでございます。

ただ、コミュニティバス、意外と乗ってみると便利だったりもするというようなところもある
ので、そういった若い方々ですとか、小学生、中学生にも利用、分かってもらって乗ってもら
うというようなことも大事なのかなというふうには考えておりますが、まずは高齢者の方になるべ
く利用しやすいような環境を考えてあげたらいいのではないかなというふうな御意見だったと思
いますので、その辺も踏まえて今後取り組んでいきたいというふうに思います。ありがとうございます。

【議長】

ほかに何か、どうしても言っておきたいですとか、お話をしたいですとかございましたら。
どうぞ。

【委員】

バスロケーションシステム、これ350万なのだけれども、どなたかおっしゃった将来お金が
かかってくるのではないかなというのを考えたこと。バス停に屋根をつけると、その維持費もか
かってくるのではないかな。そういう予算を市が組んで、こういう計画をしているのかというの
が一つ。

それと、ナッシー号どうしたらいいとかとよく聞くのです。若い方の考えは、路線バス並みに
運行しては駄目よと。年寄り乗せるバスだろうと。そうしたら、若い方は自転車もあれば、車も
あれば、バイクもある。何でも動けると。でも、お母さんみたいに年取ってバスしかない人には、
さっき自治連合さんがおっしゃったように、路線バス並みで動かせば、年寄りは動きにくくなる
というのを言ったらというのと、通勤通学に使う時間帯は、多分8時半、9時までには終わっ
ちゃうと思うの。それは路線並みで、どんどん、どんどん運べばいいの、駅へ。その後、年寄りが
用あるのは、10時頃から3時頃までに、買い物行ったり、役場行ったりという時間帯が自由に
乗れないというのを考えてほしいことと。だから、うちの若い人は、通勤時間をのけた余った時
間帯をもっと真剣に考えたら、みんなが利用しやすいバスになるのではないかと若い人の意見。

それと、私いつも言っているのは、目的地に行くのにバスがない。大山口から福祉センターの
お風呂へ入りにバスに乗りました。行けども行けども着かない。55分かかったそうです。福祉
センターで。せっかく気持ちいいお風呂に入って帰ってきても、また1時間バスに揺られて帰っ
てくる。暖かいからいいのですけれども、これ冬になったら湯冷めしちゃう。だから、これを何
とかしてくれないかというのがありました。それは、その他で発表しようかと思ったのですけれ
ども、バスの運行時間をもっと考え、令和7年度から、また新たに考え方って、発表したときに

役場のほうから言われたので、7年まで待たなければ駄目なのかと思って、この会議に出ています。時間帯なかなか。

それで、どういうふうにこの時刻表を作っているのと聞かれたから、電車の時間に合わせてバスの運行は決まっていますと答えたのです。そういうふうに答えられたから。

そうしたら、1時間に4本も5本も走っている電車の時間に何で合わせるって。行ったら何とか乗れる。でも、このバスは、1日に6便、多いところで10便しか走っていないのに、何か違うなという皆さんの御意見でした。

特に、新鎌行くのをやめて、北ルートは10便になりました。1日ですよ。それも、時間が一番早いので6時50分。それで、最終が8時頃にはもう終わっちゃうの。その間にもっと利用しやすい時間の時刻表を作ってほしいなというのを何回かのときに発表したはずですよ。意見で出させてもらったのですけれども、確かに新鎌行くのをやめてから、市内のバスは増えました。その分、ああ、増えたんだ、もっと利用しやすいバスになればいいのになと思っていても、なかなか利用しにくいバスだなと今、常を感じています。こういうシステムとかいろんなものを取り入れてもらうのもいいのだけれども、若い方は頭も速いし、回転も速いし、体も動く。でも、こういうのに苦手な人たちのことを、それがコミュニティバスではないかと私は思うのです。若い方を悪く言うつもりはないのだけれども、いつでも行動できる。でも、年寄りには行動を考えるのに、よく考えて、このバスに乗って、その次にという考えで動いていますから、不便たるやない。

だから、今日の会議でも、ここへ来るのに私のところは2本線があるのです。風間街道の北ルートと七次台走る西ルート、この2本を使っても、10時に間に合うバスがない。だから、仕方なくタクシーを頼むんです、いつも。帰りは何とかありますから。だから、そういうのを考えたコミュニティバスでないと、市民は理解できないと思う。

私の個人の意見なのだけれども、バスに税金使うのは賛成。人の助けになるようなことにお金を使うことは賛成。だから、今8,000万ぐらい赤字になっているのでしょ。それは当然だと思うの。利益を求めバスというのを考えてコミュニティバスを走らせたのでは、市の発展はない。これだけ利用できるのだよ、こんないいところがあるのだよって言えば、ああ、白井はいいところだと、どんどん白井に皆さんいらっしゃると思う。そういうのを考えて、7年の事業計画見直しときには、もっともっといい案が出るように。批判ばかり言いますけれども、年寄りが住みやすい町にすれば、絶対、年寄りを大事にしてくれるからと、ほかのところから白井へ来るよと私は思います。その辺り言わなきゃと思っていたことを今言いますけれども。

【議長】

ありがとうございました。整理をいたしますと、まず本日の議題であるところの(1)事業予定についての御質問、御意見ということで、今後の事業費の継続分といたらいいのでしょうか、その御質問が1点ございました。

今回の議題のその他ということになりましょか、バスの時刻表ということ、本日の議題とち

よっと離れたといいましようか、そういった意味で、その他で扱わせていただきたいと思いますけれども、バスの時刻表、これの全体的な見直し、もっと利用しやすいような時刻表に見直してほしいと、そういった御意見。

大きく分けますと2点あったわけですが、事務局から何かございますでしょうか。

【事務局】

御意見ありがとうございます。

まず、事業費についてなのですが、バスロケにつきましては、システムの使用料とかは、維持費と申しますか、使用料的なものはかかってくるのかなというところでは認識しております。あと、当然バスの上屋、屋根とかつけた場合、いずれ修繕とかそういったものは当然、必要にはなってきますので、そういったところもかかってくるのかなというところは認識しているところです。

あと、時刻表につきましては、なかなか乗りたい時間にバスがなくてというようなお話、今いただきまして、ただ、実態としましては、今ナッシー号4台のバスが市内を常に循環と申しますか、ぐるぐる回りながら運用しているような形になりますので、なるべく皆さんが利用しやすいようなダイヤだったり、ルートだったりをつくっていきたいというところはあるのですが、4台で、限られたバスで運行しているというようなところもございますので、目的地まで時間がかかってしまったりというようなところも、実態としては出ているのかなというところはございます。

今後、改定する際には、またそういった意見も踏まえながら、なるべくよりよいダイヤになるように検討していく必要はあるかなというふうに考えております。

以上です。

【議長】

いかがでしょうか。ありがとうございました。

大分議論も深まってまいりました。ほかに何か御意見等ございますでしょうか。特に今日、御発言がまだされていらっしゃる方、いかがですか。

今日バスロケシステムと上屋、これを中心議題としたわけですが、その他といいましようか、本日の議題以外での御意見、御質問等々ございましたら、引き続きお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

【各委員】

特になし

(2) その他 コミュニティバス「ナッシー号」利用状況について

(事務局より、資料に基づき説明)

【議長】

ただいま事務局から説明がございました。

不明点や確認したい点またはご意見等がございましたらお願いします。

【委員】

素朴な、ちょっとあれと思うような質問なのですけれども、スクールバス走らせるでしょう。第一小学校37名に対して、第二小学校64名に対して。101人の生徒さんたちに足の確保をするのだけれども、この路線バスで、ナッシーのバスでは駄目だったのですか。スクールバス走らせることに対して、何でコミュニティバスが走っているのに、何が不便なのかなというのを常々思っています。

第二小学校へ行くバスは、時々、私乗るのだけれども、子供が、先生さようなら、ありがとうと帰るバスに、子供たちが五、六人乗るのは、時々会いました。だから、あのバスが走っているのに、何でスクールバス年間3,000万も使って走らせるのかというのを思っていました。それ利用せんならんという理由があるんやろうか。それを聞きたかった。

【議長】

ありがとうございます。

【委員】

スクールバスに関しましては、ちょうど八街のほうで登下校中の児童がトラックにはねられて亡くなるという痛ましい事故があって、本市でも、子供の安全を第一に考えたときに導入されました。スクールバスについてと、なぜかということですが、スクールバスを導入したほうが、より御自宅に近い場所で乗降できるというのが利点で、導入に至った経緯がございました。以上でございます。

【議長】

役割がやっぱり違うということなのですよ。それが一番大きいところです。

【副会長】

ナッシー号の北ルートをつくる時に、スクールの役割を入れるためにかなり面倒なルート

設定にしたと記憶しているのですが、スクールバスを走らせたということは、その辺りは、調整は再度されたほうがいいのではないかと思います。

何がいかんのかというと、北ルート本数増えているのですけれども、さっきおっしゃっていただいたとおりで、若干不便なのと、分かりにくいのといろいろありまして。現状がどうなっているのかの詳細は、私、実は知りたくて、学校に行けるようにするためのルートと時間にするために、ほかのルートにしわ寄せがいつているはずなのです。私の記憶、ちょっと記憶が薄くてあれなのですけれども。そういうことで、少しその辺りの時刻の制限が緩和されたということであれば、もうちょっと利用しやすいダイヤができるかもしれないと思いました。なので、可能であれば、その辺りの御利用状況を確認していただいて、特に北ルートの子供たち向けにつくったものが今もあるのか、私、把握していないのであれなのですけれども、御利用が少ないルート、時間帯などがもしあるようであれば、少し見直しを前倒して検討してもいいかもしれないということをおもいました。コメントでございます。よろしくお願いいたします。

【議長】

ありがとうございました。

どうですか、事務局。

【事務局】

スクールバスにつきましては、今年度はまだ試行運行というところもございますので、影響とかも踏まえて、状況のほうを注視していきたいというふうに考えております。

以上です。

【議長】

北ルートの見直しについては、それも含めて。

【事務局】

現状が試行という部分がありますので。ただ、北ルートだけ1か所変更すると、全てというようになるところもございます。その辺も踏まえて。

【議長】

ありがとうございます。

【委員】

もともと私は、工業団地の近くに住んでいました。二小は、今は特認校としてなっていて、学

区域外からも来るのです。そうすると、二小にナッシー号のルートで走らないのですよね。1本では行けなくてというもあります。

あと、みんな工業団地のトラックの多さに困っていて、みんな学校に駐車場があるので、送り迎えをしていました。平塚のほうになると、バスが結構行くので、平塚方面のほうの人はみんなバスに乗っていました。ただ、その手前には、バス停がなくて遠いので、みんな送っていました。

あと、特認校の西白井方面なのですけども、すごくみんな乗っています。席がないぐらい乗っています。

以上です。

【議長】

乗っているというのは、スクールバスに乗っているということですね。

【委員】

そうです。

【議長】

いかがですか。今いろいろなところから、お話。

【委員】

必要だったらと思うのだけれども、この北ルートで自由乗降とあるでしょう。そういうところのお子さんは、手を挙げればバスが止まって、乗せていってくれるとなっているでしょう。

ただ、何か子供を大事にしなきゃ、日本の国の子だからと、日本の国の子とって認識はしているんだ。だけれども、年寄りも今まで行政とか町に尽くして、やっと楽になって、子育て終わって楽になって、これからというときに、免許はありません、足もありませんと。もうちょっと年寄りを考えてくれたらというのが常々思っていますので、こういう意見になるのです。致し方ないことだと思いますけれども、ちょっと考えてほしいと思う。

私、本当にバスにお金を使うのは反対ではないの。だから、どんどんそういうところにお金を使って、もっと町が、白井市がよくなれば、こんなにありがたいことはないと思っています。私、白井に越してきて、もう50年になります。その間、どんだけこの白井が発展したか、便利になったかって、それは重々分かっていますので。これからも死ぬまで白井にいますから、いろいろと分かりました、今のスクールバスにしては理解しました。ありがとう。

【議長】

ありがとうございました。

【委員】

今の御議論って、実は非常に大事なところかというふうに考えております。

別の自治体、とある自治体なのですけれども、交通の関係でいろいろ議論しているときです。あるとき福祉の分野で、こういう、言ってみればバスですよね、そのようなあれが走り始めて。影響するのではないかというような懸念を持ったことがありまして。

例えば、コミバスというのは交通関係のジャンル、スクールバスというのは教育関係のジャンルというふうに、最初の発祥の意図というのは全く別だと思っておりますけれども、移動手段という意味では、やっぱり一緒だと思えますよ。だから、それを踏まえて、ではどういう移動体系が最適なのかということは、改めて考える必要があるのかなというふうには、今の議論を聞いていて思いました。

今スクールバスのほうも、今年度、当社のほうでやらせていただいているのですけれども、実態としてどういうふうになっているかということ、結局スクールバスは朝と夕方ぐらいが動いている。日中は、今度は動いていない時間帯です。

一方で、コミバスというのは、基本的には日中動くというものですから、そういう意味では、資源効率というか、資産効率としても決していいものではないかなというふうには考えております。それが結局、市の御負担にもなってくると思うので、移動手段として何が最適かということで、またゼロベースで考えるということは、どこかで必要になってくるかとは思っています。

以上です。

【議長】

ありがとうございました。

事務局から何かありますか。大丈夫ですか。

確かに今御指摘のあった部分、役所の機能のやっぱり一番大きいところだと思います。これからを睨んで真剣に議論をしていかななくてはならないジャンルなのかなと、伺っていて本当にそう思いました。ありがとうございました。

【委員】。

私のほうも北ルート、令和3年の改正のときに、小学校のお子さんの通学に充てるといったところを記憶しているのですけれども、それを踏まえて、今回このスクールバス、先ほど八街の事故の影響で始めたということなのですけれども、当然これ地域公共交通網活性化協議会とは別のところでスタートしたと思うので、そのスクールバスの概要というか、スタートした年と今後の予定みたいな、予定というか計画の、単年度なのか、これから続いていくのかというところ確認させていただきたいのですけれども。それによって、先ほど出たように、ルート自体の検討を見直す必要が出てくるのではないかとこのところが考えられますので、そこら辺のスクール

バスの事業計画の概要を少し説明していただければと思います。よろしくお願いいたします。

【議長】

ありがとうございました。

【委員】

それでは、教育支援課の榛沢です。スクールバスにつきましては、教育委員会内で協議をしております。今は試行の段階でございますけれども、これから本格的に行っていくのかというのを検討している最中でございます。

【議長】

何となく分かったような、分からないような。

スクールバスは、試行運行段階で、議論の最中だということでございます。また、しかるべきタイミングといいたいでしょうか、機会で、きちんとまた事務局で御報告差し上げると、そういう場を設けたいと思っております。

そろそろお時間も近づいてまいりました。あと何か御意見、御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

そろそろ締めめの時間かというところでございまして、今日、本当にいろいろな御意見、多方面から頂戴をいたしました。本当にありがとうございます。今後の取り扱いにつきましては、板谷副会長と私と事務局とで相談の上、今後の計画に反映できるところは反映をさせ、調整の上進めてまいりたいと考えてございます。

また、その他出てまいりました御意見につきましては、私どもで取りまとめをさせていただいた上で、次回、これは来年になるのですか、次回の会議にて報告をさせていただきたく存じます。貴重な御意見、本当にありがとうございました。

では、以上をもちまして本日の議題、終了をいたしたいと思っております。本当に御協力ありがとうございました。

進行を事務局に返したいと思っております。よろしくお願いいたします。

【事務局】

長時間にわたり会議のほうお疲れさまでした。

次回、本協議会の開催予定等について、ここで連絡をさせていただきたいと思っております。次回の協議会については、年明け、1月下旬頃をめどに開催したいと考えております。議題については、事業評価と次期計画策定についてになるかと思われます。開催時期や議題等の詳細については、改めて皆様に御連絡をさせていただきたいと思っております。

次に、本日の報酬の振込について説明させていただきたいと思います。本日の会議、委員報酬の対象者の皆様につきましては、源泉徴収税額を引いた額を御指定の口座に振り込ませていただく予定です。よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして令和5年度第1回白井市地域公共交通活性化協議会を閉会したいと思います。お疲れさまでした。